



現代文の勉強法

センターが（チャレセンが）終わった後、さすがにあの問題が難しかったせいだろうか、今日までに5名の生徒が古典の勉強法について相談に来た。だから、授業で古文・漢文それぞれについて、これから勉強する際のポイントについて説明したのである。先ずはしっかり覚えるべきこと（例えば助動詞や敬語）を覚える、そして、それをどう活用して読解をすすめるのかを意識して、日々の学習に取り組むというのがポイントである。

特に理系の諸君については、以後、必修の授業がなくなってしまうわけだから、自選で古典演習と選択した人も、しなかった人も、センターの過去問演習が勉強の中心になるはずだ。その問題演習をする際に、何気なくやっていたは、いつまでたっても力はつかない。「この問題は、敬語の知識を使って解くのだな」とか、「ここの書き下し文は、こういう論理展開なのだから、こういう意味に読み取れるようにしないとイケないんだろうな」とか、時間がかかっても構わないから、理論的に考えて答えを出すように心がけることが大切である。間違いを消して正解に到達するのではなく（このやり方が本番で必要になることもあるが…）、時間をかけてもいいから、正解を選ぶ勉強法を一度しておかないと、いつまでたっても「雰囲気を選ぶ」「最後の二つに絞って結局間違う」という状況から抜け出せないままになってしまうだろう。

繰り返すが、自分のもっている知識を使って、こういう風に解いたという「理路」を意識する学習をしてほしい。その題材として、とりあえず過去の模擬試験の問題を利用する

のも一法である。一年生の時の問題は易しいはずだから、その易しい問題を使って、単に解くだけでなく、解き方の過程を意識してみるのである。ぜひ3月いっぱいまでに、1・2年次の模擬試験の復習をしておこう。

＊

ところで、現代文の方はどうだろう。例えば、「読むのに時間がかかる」という悩みを持つ人がいるかも知れないが、これは解決しようがない。「実力がついてくると、自然に早く読めるようになる」ということなのであって、何かテクニク的な速読の方法があるわけではない。

何とか日常生活の中で現代文の実力をつけようと思ったら、私は英語の予習をする際に、その訳文を（たとえ直訳であっても）分かりやすい日本語にするというのが、それなりにイキきっかけになるのではないかなと思う。普段、なかなか難しい文章を書く機会はないと思うが、英文和訳の題材になっている文章は、高級な語彙と論理性を備えているはずだから、その訳文を、意識して高級な語彙と論理性をもって日本語に訳すようにし、その過程でなるべく漢字を多用したり、熟語の意味を確認したりするようにすれば、現代文の実力養成にも結びつくのではないだろうか。

最後に、出口汪『東大現代文で思考力を鍛える』（大和書房、2013）という新書版の本も紹介しておこう。出口先生はかつてのカリスマ講師で、東大で出題された文章を題材に、その読み取りのポイントを簡潔に示してくれている。問題例も掲載されており、取り組むべき文章のレベルを知る上で有効である。